

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2F梅ユニット1)

事業所番号	0170401277		
法人名	医療法人 尚仁会		
事業所名	医療法人 尚仁会 グループホーム「西まち」		
所在地	札幌市西区西町北8丁目1-25		
自己評価作成日	2019年8月15日	評価結果市町村受理日	令和元年11月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170401277-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階
訪問調査日	令和元年9月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所のモットーとしていることは相手に「優しさ」を伝え感じていただくこと。そのためには関る全ての動作に指先最後まで添えかかわることを実施している。人に対しても物に対しても同じ様にかかわることでスタッフの動きも穏やかで、激しい物音がなく落ち着いた環境が整える。「指先から優しく」という言葉を使って実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、札幌市西区西町の市街地に位置し、新琴似通りに面した3階建て2ユニットのグループホームである。地下鉄東西線発寒南駅から徒歩3分の至近距離にあり、商店街にある利便性のいい立地である。建物は2階3階が各ユニットで、1階は法人の元クリニックだが現在は会議室となっている。近隣には、コンビニなどの各種商店が並んでおり、中小路には公園があり散歩コースに適している。交通の便が良いので、家族や友人などの訪問が多く、月1回は家族の訪問がある。法人は清田区の医療法人が母体だが、以前は所在地に開院しており、地域からの信頼が厚い。当事業所はケアの方針として「指先から優しく」という言葉が職員のケアの基本となっている。また、ホーム長が経験豊富な看護師で、看取り等医療連携の24時間支援体制を構築しており、安心して暮らせる住まいである。家族会も3ヶ月に1回開催しており、夏祭りは、地域と家族が大勢参加するなど地域の行事となっている。これからも地域の一員の事業所として期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員が理解できるように、毎朝理念を唱和し実践に繋げられるようにしている。	事業所の理念は、開設時に職員皆で検討し作成したもので、事業所内に掲示しパンフレットにも掲載して、利用者や家族にも周知するよう努めている。また、職員の名刺の裏にも記載しており、毎朝の申し送り時に唱和し職員間で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の方々にはホームの行事に参加していただいたり又は町内会の行事や草刈り、ゴミ拾い等に参加し交流している。夏祭り、敬老祝いには来てくれる。	町内会行事の草刈りやゴミ拾い等に参加しており、また、事業所主催の夏祭りや敬老会などに町内のボランティアによるフラダンスなど地域の方が大勢参加して交流している。また、介護実習生や看護実習生の受入れも積極的に行っている。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通して認知症や高齢者の悩み等の相談をうけている。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容は毎月の西まち便りをもとに報告し内容に応じてはアドバイスをいただいたりしている。	運営推進会議は、家族や町内会役員、地域の方、地域包括支援センター担当者などが参加して、定期的に開催し運営状況の報告や意見交換、情報交換をして、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	中々連絡は密とはいかないが困難事例やわからないことは頼りに相談したりしている。管理者会には区の介護保険課保健婦参加もある。	地域包括支援センターと西区の介護事業所管理者会が連携して、警察や町内会を含めて年1回徘徊対策の訓練を行っており、また、困難事例など随時相談して協力関係を築くよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束減算」に繋がることもあり身体拘束に対する意識は高まっている。玄関の施錠はしない。	事業所内に身体拘束防止適正化委員会を設置して、指針やマニュアルを整備し、毎月検討会を行っている。また、研修会を年3回行って、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の身体拘束防止適正化委員会会議では拘束チェック表を通して確認している。身体拘束は勿論言葉の拘束にも注意を払っている現状です。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	最近では中々機会がないが必要性に応じ支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点を尋ね、十分な説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3か月に1度家族会を設け疑問や要望を尋ねている。又毎月の支払時にも「月のまとめ」等渡す時にも聞いている。	ホーム便りを毎月発行し、利用者毎の生活状況を記載した「月のまとめ」も毎月作成し家族へ報告している。玄関には意見箱を設置し、3ヶ月に1回家族会を開催して、家族からの意見や要望を聞き、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでもどんなときでも意見や要望は聞いている。	職員の全体会議は、勉強会を含めて月2回実施しており、欠席者には議事録を閲覧して共有している。個人面談は、年1回定期的に実施しており、職員からの意見や提案を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は労働者のやりがいに繋がるよう努めてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は労働者の学習意欲や機会を大いに理解を示し協力してくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同事業所との勉強会や交流会には参加している。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望時見学時には本人も一緒に見学を進めている。本人が来れない場合には当ホームから面会をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学に見えた時々話を聞き相談を受けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め新しい環境に慣れる様に気を使い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できること、できないことの見極めをし、できることを継続できるよう支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時生活状況を伝えたり、また月まとめ記録を毎月家族に渡す時生活状況がわかるよう説明している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望があれば家族に伝え協力していたき馴染みの関係が途切れないよう支援している。	立地の利便性が良い為、家族や友人、知人の来訪が多い。家族と一緒に墓参りや馴染みの店などへ行っており、関係が途切れないような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り利用者同士がより良い関係が保てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も相談があった場合応じている。行事等には誘いの連絡し合っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望等を把握し本人が穏やかに暮らせるよう検討している。	センター方式を活用して、利用者の思いや意向を把握するよう努めている。また、日常生活の中でも本人の希望に添えるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式によりアセスメントをとり情報として把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日担当スタッフが様子観察し記録し申し送りで現状把握が途切れないようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1人の入居者にスタッフ全員でモニタリングし介護計画に活かしている。申し送りの後ミニカンファレンスで話し合っている。	利用者毎の担当者が家族からの意見や要望等の情報収集し、職員全員が利用者毎のモニタリングを書面で行い、計画作成担当者がまとめて介護計画を作成し、主任、管理者と打ち合わせして、現状に即した介護計画作成し家族へ説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りの後ミニカンファレンスにて情報を共有し実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人1人を柔軟な支援に繋げられるように心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア活動は利用していないが訪問美容、歯科、訪問診療等利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回訪問診療を受けている。又緊急性がある場合はいつでも往診してくれる。	協力医療機関が月2回の訪問診療で、歯科医も訪問診療がある。管理者が看護師で常勤しており、24時間の適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師にていつでも対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合週2回は訪問し入院先の看護師と面談し経過を把握している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	「重度化に関する指針」を説明し家族の想いを聞き更に重症化した場合「看取り介護同意書」を交わし看取りに取り組んでいる。	入居契約時に「重度化に関する指針」を説明している。重度化した場合は、看護師から説明し、本人や家族の意向に添い「看取り介護同意書」を交わして、主治医・看護師・職員と連携して看取りの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応の訓練はしていないがパニックにならないように状態を正確に看護師に連絡するように伝えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回実施。避難訓練には町内会の方々も毎回参加している。又近隣住民も参加している。	避難訓練は、消防署の指導の下、備蓄やストーブなどの備品も整備して、家族や地域の方の参加により年2回定期的に行っており、地域の協力体制を築いている。	

Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の個性を大切に、その人に合った対応を心がけている	人格の尊重とプライバシーについては、自己評価の学習会で言葉使いなどを研修して学び対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に声をかけその表情や訴えを叶えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	本人の希望に沿った対応をしている。職員の都合でトイレを待たせたり強引な生活リズムに合わせるような事は避け支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	だらしない身だしなみにならないように支援している。定期的な訪問美容も利用している。個人の希望に沿った容姿に整えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物等は中々現実的には厳しいが、食材のきざみ、おろし等はお手伝いしたり食後の食器拭き等できるように整えている。	料理専門の職員が3人おり、美味しい。利用者は下準備や食器拭きなどを手伝っている。行事食は、出前ピザや寿司、夏祭りで焼き肉などを行っており、近隣の蕎麦屋やショッピングセンターフードコート等で楽しみな食事の支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合った食事量、栄養のバランスがとれた好みの食材、水分は平均1000ミリ目安に取れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを実施している。口臭がないように心がけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	つかまり立ちができない方以外はトイレにて排泄できるように支援している。	排泄記録簿を見て、利用者毎の排泄パターンを職員間で共有して、一人ひとりの機能に沿ったトイレでの自立した排泄に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として起床後牛乳、おやつ時ヨーグルト、ホーム特製おからクッキー等を提供し心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	最低週2回は入浴できるように支援している。又入浴拒否がある場合は工夫を凝らし試みている。それでも無理な場合は次回試みる。	入浴は週2回以上で、午後からが基本だが希望により自由に入浴できる。嫌がる場合は、無理強いせず次回試みるなど個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の睡眠パターンに合わせて休息していたっている。夜間、日中ともに睡眠不足であれば医師に相談している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬の目的、副作用等を理解し症状等の変化が見られたら看護師(又は医師)に報告し指示を仰いでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人に合った役割、楽しみごと、気分転換等を考え活かされるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には出かけることは難しくお花見、近隣公園には年1-2度出かける程度。他は家族の面会時散歩がてら外出できるように声かけしている。	日常的に近隣の公園やコンビニエンスストアなどへ散歩や外気浴をしている。外出行事は、お花見やショッピングセンター、近隣の飲食店など家族の協力により実施している。駐車場でいう夏祭りは地域の方や家族が多数参加して楽しみな行事となっている。	3ヶ月に1回家族会があるので、家族会にて、家族と一緒に外出行事の計画を企画検討して、家族と一緒に実施できることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの入居者はお金の所持はなく、預り金としてホームで管理し収支は毎月家族に確認を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望に応じ支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	人の動きに作用されない空間に心掛けている。又ガチャガチャした雑音を出さないように心掛けている。	共用空間は、風通しや採光もよく、清潔感があり、落ち着いた雰囲気である。絵画や行事の写真、利用者の作品などの掲示や季節の飾り物があり、市街地にあるがホーム内はゆっくりとした時が流れており、利用者の笑顔が溢れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の居場所はある程度定着していることもある。又落ち着いた居場所になるように工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は本人の自由にしている。気になって破損等が見られようであればホームで預かるか又は家族と相談し持ち帰っていただいている。	居室にはベットが設置しており、壁が白で明るい感じである。利用者は使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」「わかること」の見極めをしある程度自立した生活ができるように支援している。		